

令和 2 年度岐阜県計画に関する 事後評価

令和 4 年 11 月
岐阜県

3. 事業の実施状況

令和2年度岐阜県計画に規定した事業について、令和3年度終了時における事業の実施状況について記載。

II 在宅医療・介護体制の充実

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO.7】 小児・障がい児者在宅家族支援推進事業	【総事業費】 22,190 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	(1) 岐阜県（岐阜県看護協会） (2) 重度障がい児者を受け入れる短期入所事業所等 (3) 岐阜県	
事業の期間	令和2年4月1日～令和4年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	医療的ケアを要する重度障がい児者が増加する一方、その在宅支援体制は未だ不十分であり、今後更に充実を図る必要がある。 アウトカム指標：NICU等長期入院児（6ヶ月以上）数 7人（H25年度末）→ 0人（R3年度末）	
事業の内容（当初計画）	(1) 重症心身障がい在宅支援センター「みらい」の運営 重症心身障がいに特化した支援センターによる相談窓口の運営、家族同士の交流の場である家族交流会の開催、ウェブページ・機関誌等による情報提供及び支援機関に対する指導・研修事業等を実施。 (2) 重度障がい児者向け短期入所等の拡充に向けた支援 重度障がい児者の在宅移行に不可欠なレスパイトの拡充に向け、人工呼吸器や気管切開、経管栄養、頻回の痰吸引など、特に医療依存度が高い方の利便性向上の取組み等受入れに対する支援を実施。 (3) 支援機関相互のネットワークの構築 支援機関で構成する連絡・協議の場を設置し、レスパイトの課題、優良事例の共有や、災害に伴う長期停電時等の人工呼吸器装着児などへの対応体制等の検討を実施。	
アウトプット指標（当初の目標値）	障がい児者家族交流会延べ参加者数 0人（平成25年度末）→ 2,200人（令和3年度末）	
アウトプット指標（達成値）	障がい児者家族交流会延べ参加者数 2,010人（令和3年度末）	

事業の有効性・効率性	<p>(1) 事業の有効性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障がい在宅支援センター「みらい」の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを要する重度障がい児者に特化した相談窓口として、医療職（看護師）による相談業務や家族交流会等を開催したところ、相談件数等は年々増加傾向にあり、「みらい」の活動を今後も継続してほしいとのニーズもある。 2. 重度障がい児者向け短期入所等の拡充に向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・家族からのニーズが最も高いレスパイトサービスについて、医療依存度が高い重度障がい児者を受け入れる短期入所事業所等に対し、運営費の一部を補助することでレスパイトサービスの受け皿の確保が図られた。 3. 短期入所等運営機関ネットワーク会議の設置・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・重度障がい児者を対象とした短期入所事業所等によるネットワーク会議を開催し、各事業所の受入や課題について共有、意見交換を行うことで、各事業所間の連携体制の構築とレスパイトサービスの向上が図られている。 <p>(2) 事業の効率性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障がい在宅支援センター「みらい」の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、重度障がい児者の家族や関係機関からの相談窓口等を担うことから、重度障がい児者の実情に精通した岐阜県看護協会への委託とすることで、県内関係者のコンセンサスを得ながら迅速かつ効率的に実施できた。 2. 重度障がい児者向け短期入所等の拡充に向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な重度障がい児者の受入れには、受入れに使用する空床の確保や看護師の加配などで運営経費の負担が大きくなることから、受入れ日数に応じた補助制度とすることで、実績に伴う効果的かつ効率的な補助体制となっている。 3. 短期入所等運営機関ネットワーク会議の設置・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを要する重度障がい児者の短期入所等を行う事業所が一堂に会することで、効率的に各現場の現状や課題について情報共有、意見交換が図られている。
その他	

II 在宅医療・介護体制の充実

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.34】 小児救急医療拠点病院運営事業	【総事業費】 230,054 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県総合医療センター、大垣市民病院、他 2 病院	
事業の期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>病院を中心に小児科医の不足・偏在が存在し、特に、休日・夜間の診療体制の確保が困難となっている。また、小児患者は自ら症状を説明できないことや症状が急変することが多いため、小児専門医による診察が重要となる。そのため、小児専門に対応した救急医療体制の確保が求められる。</p> <p>アウトカム指標：補助金交付先医療機関 4 病院 (R2 年度) → 維持 (R3 年度) 乳児死亡率 2.0% (H28 年) → 1.8% (R 元年)</p>	
事業の内容 (当初計画)	小児救急医療拠点病院の運営に必要な経費を助成する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	小児救急医療拠点病院数 4 病院	
アウトプット指標 (達成値)	<p>県内すべての 2 次医療圏において体制を確保できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県総合医療センター (岐阜/中濃) ・大垣市民病院 (西濃) ・岐阜県立多治見病院 (東濃) ・高山赤十字病院 (飛騨) 	
事業の有効性・効率性	<p>(1) 事業の有効性 休日及び夜間の入院治療を必要とする小児の重症患者の医療を確保することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 小児救急医療体制は、初期・二次・三次の役割分担と連携により確保を図っている。また、小児二次救急医療体制 (小児救急医療拠点病院) は市町村域を超えて、より広域的に取り組んでいる。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.37】 地域医療確保事業費	【総事業費】 187,981 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	市町村（一部事務組合を含む）	
事業の期間	令和2年4月1日～令和4年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県は、人口 10 万人当たりの医療施設従事医師数は 215.1 人（全国 37 位）と、全国平均数 235.9 人を大きく下回り、医師不足は深刻な状態となっており、加えて医師の地域偏在も存在している。</p> <p>偏在を解消するためには、各地域の実情に応じた対策を行う必要がある。</p> <p>アウトカム指標：人口 10 万人対医療施設従事医師数の増加 215.1 人（H30 調査）→235.9 人（R5 調査）</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>主として医師、看護師の確保を目的として、市町村（一部事務組合を含む）が実施する地域医療確保策（ソフト事業）に対して補助を行う。</p> <p>【対象事業例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に関する寄附講座事業 ・医学生・看護学生への修学資金貸与事業 ・医学生の地域医療実習 ・医療講演会の開催 など 	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附講座事業数 5 講座 ・医学生修学資金の貸与者 5 名以上 ・看護学生修学資金の貸与者 40 名以上 ・医学生の地域医療実習 1 回以上 ・医療講演会 1 回以上 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附講座事業数 9 講座 ・医学生修学資金の貸与者 5 名 ・看護学生修学資金の貸与者 42 名 ・医学生の地域医療実習 1 回 ・医療講演会 1 回 	
事業の有効性・効率性	<p>（1）事業の有効性</p> <p>医師及び看護師の確保のため、市町村が主体となって行う地域の特性に応じた地域医療確保対策に係る事業に要する経費に対し、支援することにより、医師確保等の地域医療確保策を促進することができた。</p>	

	(2) 事業の効率性 県内各圏域の保健所を通じて事業の照会を行うことにより、適切に地域のニーズをくみ取ることができたと考える。
その他	

VII 介護人材確保対策・資質向上の推進

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.2】 介護人材育成事業者認定制度実施事業	【総事業費】 21,303 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県(民間事業者へ委託)、民間事業者へ補助	
事業の期間	平成 28 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。 アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人(平成 25 年度)→35,726 人(令和 2 年度)	
事業の内容(当初計画)	人材の育成と職場関係改善に積極的に取り組む介護事業者を認定し、公表することで、介護人材の確保、育成及び定着を促進する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	求職者・就業者が安心して働き続けられる環境整備に向けた事業者の育成。 ・認定事業者 70 事業者/年	
アウトプット指標(達成値)	介護人材の離職防止・育成確保を図るため、積極的に人材育成に取り組み、一定水準以上の処遇改善を行っている介護事業者の認定・公表。 ・取組宣言事業者：105 事業者(平成 28 年度)、60 事業者(平成 29 年度)、40 事業者(平成 30 年度)、43 事業者(令和元年度)、32 事業者(令和 2 年度)、34 事業者(令和 3 年度) ・認定事業者：62 事業者(平成 28 年度)、62 事業者(平成 29 年度)、30 事業者(平成 30 年度)、20 事業者(令和元年度)、15 事業者(令和 2 年度)、27 事業者(令和 3 年度)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人(令和 2 年度)	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>「岐阜県介護人材育成事業者認定制度」を平成 28 年度から開始し、令和 3 年度末時点で 150 事業者の認定を行っており、介護人材の参入、育成及び定着を図ることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>制度の普及により、事業者に対して介護人材の育成及び職場環境の改善の取組の推進を図ることができた。今</p>	

	後、認定事業者を公表することで、効率的に介護人材の参入、定着を効率的に図ることができる。
その他	R3年度 23,096 千円中 21,303 千円(残額は他の年度の基金を充当)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 3】 イメージアップ事業	【総事業費】 2,810 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（委託：岐阜県社会福祉協議会）	
事業の期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,675 人（令和 2 年度）	
事業の内容	小・中学生を対象に、早い時期から介護の仕事の大切さを伝え、介護についての理解・認識を深めることで、介護のイメージアップ、啓発を図る。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護の仕事の大切さを伝え、介護についての理解・認識を深めることで、介護のイメージアップ、啓発を図る。 ・ふくしのお仕事体験フェスタ参加者：200 人／年 ・福祉の仕事ガイドブックの作成：22,000 部／年	
アウトプット指標（達成値）	小学生・中学生とその保護者を対象に、介護の仕事の大切さや魅力についての理解を深め、イメージアップを図るため、広報・啓発を行った。 ・福祉のお仕事体験フェスタ参加者 H27:174 人 H28:185 人 H29:132 人 H30:118 名 R1：653 名 R2：443 名 R3：250 名(R1～R3 は Web 含む) ・福祉の仕事ガイドブックの作成：25,000 部／年	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 介護の仕事を手近に体験することで、その魅力や大切さを実感してもらい、イメージアップを図ることができた。 小・中学生を対象に行うことで、早い時期から福祉に対するキャリア教育を推進することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 岐阜県社会福祉協議会に委託し、県全域を対象に、広報・啓発活動を行うことができた。</p>	
その他	令和 3 年度 2,810 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 4】 新人介護職員定着促進事業	【総事業費】 2,994 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県	
事業の期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護職員のモチベーションと介護技術を向上し、介護職員の定着及び介護サービスの質の向上を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,726 人（令和 2 年度）	
事業の内容	新人介護職員の定着を図るため、介護職員の実践的な技術向上やコミュニケーションに係る研修・交流会を開催する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護職員のモチベーションと介護技術の向上を図る。 ・技術交流会参加者：200 人/年 ・新人介護職員に対する研修・交流会参加者：240 人/年	
アウトプット指標（達成値）	・技術交流会参加 H27：190 人 H28：281 人 ・新人介護職員に対する研修・交流会参加者：H28:145 人 H29：70 人 H30：73 人 R1:135 人 R2:85 人 R3:120 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 本事業の実施により、新人介護職員のモチベーションと介護技術の向上を図ることができた。 また、交流会で得た発見を各事業所に還元することにより、県内全体の介護技術の向上に繋げることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 介護に関する広範的な知識、ノウハウ及び実績を有する民間事業者に委託したことにより、効率的な執行ができた。</p>	
その他	令和 3 年度 2,994 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 5】 介護人材総合情報サイト運営事業	【総事業費】 10,579 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県	
事業の期間	平成 27 年 10 月～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	インターネットを活用した情報収集・就職活動が主流となる中で、介護の仕事の魅力等について、幅広く情報発信し、仕事への理解を深め、将来にわたる介護人材の確保・定着を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,726 人（令和 2 年度）	
事業の内容	岐阜県内の介護事業所の魅力的な取組みや介護業界で活躍する人の紹介、イベント情報などを掲載したポータルサイトを運営する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>インターネットを通じて広く情報提供することにより、介護人材の確保・定着及び介護事業所の職場環境改善向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイトの構築（平成 27 年度） ・WEBサイトの運用、情報提供開始（平成 28 年度） ・岐阜県介護人材育成認定事業者の紹介（平成 28 年度） ・1 か月平均アクセス数 1,500 件 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイトの構築（平成 27 年度） ・WEBサイトの運用、情報提供開始（平成 28 年度） ・岐阜県介護人材育成認定事業者の紹介実施（平成 28 年度） ・1 か月平均アクセス数 3,270 件（令和 2 年度） ・1 か月平均アクセス数 3,730 件（令和 3 年度） 	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 介護の仕事の魅力等について、幅広く情報発信し、仕事への理解を深め、将来にわたる介護人材の確保・定着を促進した。また認定事業者を紹介し、認定制度と認定事業者をPRすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定事業者等への取材 30 件 <p>(2) 事業の効率性 サイトの構築に関する専門的な知識、技術及び経験を有する民間事業者に委託したことにより、効率的な執行ができた。</p>	
その他	令和 3 年度 10,579 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 6】 介護人材参入促進事業	【総事業費】 7,173 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（一部委託：岐阜県社会福祉協議会）	
事業の期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。 アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,726 人（令和 2 年度）	
事業の内容	介護体験やセミナーなどを通して、介護現場に従事していない方や潜在的有資格者に介護事業への就業を支援する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	将来にわたって福祉・介護人材の安定的な参入促進を図る。 ・親子職場体験バスツアー参加者：240 人／年 ・福祉の職場体験事業参加者：100 人／年 ・事業者が行う地域住民向け職場体験・セミナー開催支援： 10 団体／年	
アウトプット指標（達成値）	小～大学生や地域住民等を対象に、年齢に応じた介護体験、セミナー等を実施した。 ・親子職場体験バスツアー参加者 H27:274 人 H28:220 人 H29:231 人 H30:202 人 R1:259 人 R2:アクセス数 697 件（コロナによる中止に伴い特設サイト設置） R3:69 人（コロナのため規模縮小） ・福祉の職場体験事業参加者 H27:39 人 H28:58 人 H29:75 人 H30:117 人 R1:70 人 R2:2 人 R3:3 人 ・事業者が行う地域住民向け職場体験・セミナー開催支援 H27:5 団体 H28:4 団体 H29:16 団体 H30:6 団体 R1:14 団体 R2:6 団体 R3:9 団体	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	

	<p>(1) 事業の有効性 小中学生を初めとした幅広い年齢を対象とした介護体験、セミナー等の実施により、介護人材の参入促進を図ることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 岐阜県社会福祉協議会への委託、事業実施団体への補助金交付により、介護人材の参入促進を図るために実施される事業を幅広く推進することができた。</p>
その他	令和3年度 7,173 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 7】 介護職員初任者研修支援事業	【総事業費】 7,122 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県	
事業の期間	平成 27 年 10 月～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,726 人（令和 2 年度）	
事業の内容	介護職員初任者研修・生活援助従事者研修の経費を助成し、資格取得を支援する。 ○補助率：10/10（補助額の上限 初任研：8 万円/人 生活援助：4 万円/人）	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護職員の初任者研修の受講を支援し、技術力の向上を図る。 ・介護事業所等で就労かつ初任者研修課程を修了した者の数: 180 人/年	
アウトプット指標（達成値）	介護事業所等で就労かつ初任者研修課程を修了した者の数 H27：16 人 H28：140 人、H29:119 人、H30：103 人、R1：112 人 R2：122 人 R3：104 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図った。平成 27 年度においては、基金のスケジュール上、9 月補正予算による新規事業であったため、補助対象と出来る期間が限定され、補助対象となる研修が少なかった。</p> <p>平成 28 年度からは、4 月 1 日からの開始分を対象としており、前年度のうちから周知を行い、事業の活用率を高める取組を行っている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>報道機関への資料配布、ホームページへの掲載及び介護事業所・受講生等へチラシを配布するなど周知徹底をし、事業の活用率を高める取組を行った。</p>	
その他	令和 3 年度 7,122 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 8】 介護福祉士等登録制度普及促進事業	【総事業費】 5,925 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県	
事業の期間	平成 27 年 10 月～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	離職した介護有資格者に対して岐阜県福祉人材総合対策センターへの届出を促進し、潜在的有資格者の再就職促進を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,675 人（令和 2 年度）	
事業の内容	介護に関する有資格者を対象として再就職等に向けた情報提供を行う人材バンクへの登録を促進し、潜在的有資格者の復職の促進を図る。	
アウトプット指標（当初の目標値）	離職した介護福祉士等の届出制度の普及を図るとともに、届出者に向けた支援を行う。 ・届出システムへの登録人数 100 人／年	
アウトプット指標（達成値）	・届出システムへの登録人数 H29:201 人 H30:356 人 R1 : 304 人 R2 : 429 人 R3 : 238 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 潜在的有資格者に人材バンクへの登録を促すことで、介護分野への再就職等に係る情報提供を行う仕組みづくりができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 登録促進の案内文書を、介護事業者と過去の介護職員初任者研修受講者等に送付し、効率的に対象者に周知した。</p>	
その他	令和 3 年度 5,925 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 9】 福祉・介護人材マッチング支援事業	【総事業費】 25,722 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県社会福祉協議会（県委託）	
事業の期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	福祉現場では、質の高い介護・福祉人材を安定的に確保することが急務となっているため、個々の求職者にふさわしい職場へのマッチングの支援を行う。また、中学校、高校における啓発を実施する。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,675 人（令和 2 年度）	
事業の内容	福祉人材総合支援センターにキャリア支援専門員を配置し、ハローワーク等での相談対応を行うとともに、福祉で求められる人材に関する理解促進と進学・就職支援を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>求人情報調査や就職支援の講習会の開催等により、福祉介護人材の安定的な確保を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチングによる雇用創出数：300 人／年 ・求人状況把握のための訪問事業所数：500 か所／年 ・中学校、高校での啓発：73 か所／年 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングによる雇用創出数 H27：276 人 H28：245 人 H29：218 人 H30：105 人 R1：98 人 R2：103 人 R3：118 人 ・求人状況把握のための訪問事業所数 H27：229 カ所 H28：205 カ所 H29：197 カ所 H30：97 カ所 R1：108 カ所 R2：41 カ所 R3：26 カ所 ・中学校、高校での啓発 H30：29 か所 R1：31 か所 R2：35 か所 R3：36 か所 	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>岐阜県では、2025 年に介護職員が約 4,400 人不足すると見込まれている。そこで、福祉人材総合支援センターにおいて、キャリア支援専門員がハローワークや事業所訪問等による人材センター事業の周知などを行い、県民への福祉の仕事の周知理解の促進につなげている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p>	

	<p>キャリア支援専門員による、求職者・求人事業所へのきめ細かな支援により、福祉・介護人材の安定的な確保が図られている。</p> <p>また、中学校・高校での訪問説明会において、ぎふ福祉の魅力知らせ隊による現場での経験談の発信等により、若年層に対する福祉の仕事の魅力ややりがい等の発信を効率的に行っている。</p>
その他	令和3年度 25,722 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 11】 介護職員資質向上支援事業	【総事業費】 1,943千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（委託：岐阜県社会福祉協議会）	
事業の期間	平成27年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,675人（令和2年度）	
事業の内容	介護サービス事業所で従事する介護職員が、その知識・技能の向上を目指して参加する研修に対して、研修参加費の一部を支援する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護サービス事業所で従事する介護職員の知識・技能の向上を目指す。 ・コーディネートによる支援件数：1,000件/年	
アウトプット指標（達成値）	介護サービス事業所で従事する介護職員が、その知識・技能の向上を目指して参加する研修に対して、研修参加費の一部を支援した。 ・コーディネートによる支援件数 H27:969件 H28:933件 H29:903件 H30:859件 R1:841件 R2:402件 R3:530件	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 介護職員が知識・技術の向上を目指して参加する研修にかかる参加費の一部を支援することで、介護職員の資質向上を図ることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 岐阜県社会福祉協議会に事業を委託することで、県全域を対象に効率的に支援することができた。</p>	
その他	令和3年度 1,943千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 1 2】 介護人材キャリアパス支援事業	【総事業費】 32,262 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（一部委託：岐阜県社会福祉協議会）	
事業の期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。 アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,726 人（令和 2 年度）	
事業の内容	研修の実施等により、介護従事者の就労年数や職域階層等に応じた知識や技術等を修得し、適切なスキルアップの促進を図る。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護従事者の就労年数や職域階層等に応じた知識や技術等を修得し、適切なスキルアップの促進を図る。 ・事業者向け研修：20 回／年 ・事業者が実施するセミナー、講習等の開催支援：30 団体／年	
アウトプット指標（達成値）	介護サービス事業所で従事する介護職員を対象に、日頃の介護技術の確認や更なる技術向上のため、福祉施策の動向や介護実技に関する研修を実施した。また、介護事業者が介護職員を対象に、介護技術や知識の向上を図るために実施する事業に対して助成を行った。 ・事業者向け研修 H27～H29：各年 3 回延べ 6 日 ・事業者が実施するセミナー、講習等の開催支援 H27:25 団体 H28:35 団体 H29:45 団体 H30:57 団体 H31:60 団体 R2：68 団体 R3：76 団体	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度） (1) 事業の有効性 事業者向けの研修実施や、介護事業者が実施する事業助成を行うことで、介護従事者の知識や技術等の習得・適切なスキルアップの促進を図ることができた。 (2) 事業の効率性 岐阜県社会福祉協議会への委託、事業実施団体への補助金交付により、介護人材のスキルアップを図るために実施される事業を推進することができた。	
その他	令和 3 年度 32,262 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 13】 多職種連携アセスメント研修事業	【総事業費】 1,500 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県居宅介護支援事業協議会	
事業の期間	平成27年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多職種による適切な医療・介護サービスが供給できるよう在宅医療にかかる提供体制の構築	
	アウトカム指標：多職種連携に関する研修等に取り組む事業所数 (累計) 221 事業所 (平成26年度) →800 事業所 (H31年度)	
事業の内容	医療介護職を含めた多職種による症例検討型研修会	
アウトプット指標 (当初の目標値)	在宅医療・介護に関わる多職種かつ多様な事業所の職員に対して、医療・介護両面からのアセスメントを取り入れたケアプランの作成やサービスの提供に対する理解を深めることにより、多職種協働による利用者に合わせた適切な医療・介護サービスの一体的な提供を行う体制を構築する。 ・参加事業者数：100 事業者/年	
アウトプット指標 (達成値)	研修会参加事業者数 H27：131 事業者 H28：148 事業者 H29：105 事業者 H30：94 事業者 H31：89 事業者 R2：90 事業者 R3：56 事業者	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 多職種連携に関する研修等に取り組む事業所数 (累計) 862 事業所 (令和3年度末)	
	(1) 事業の有効性 多職種協働 (チーム) による地域包括ケアの充実に向け、多職種連携アセスメントの一層の普及を図り、在宅医療・介護サービスの充実のためのネットワーク構築が図られた。 (2) 事業の効率性 年間を通じて検討を行う研修プログラムにより、多職種の共通の認識を育み、効果的な多職種が連携した研修が行われている。	
その他	令和3年度 1,500 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 14】 介護キャリア段位普及促進事業	【総事業費】 2,170千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	民間企業	
事業の期間	平成28年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護職員のキャリアアップの仕組みを構築し、資質向上と介護事業所におけるOJTの推進を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,726人（令和2年度）	
事業の内容	介護キャリア段位制度の概要及びアセッサー講習の受講に係るセミナー等を開催する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護キャリア段位制度へ取り組む事業者の増加を図ることにより、介護職員の資質向上とキャリアアップを図る。 ・キャリア段位制度普及促進セミナーの開催：3圏域各1回 ・アセッサー講習受講支援：150人	
アウトプット指標（達成値）	介護キャリア段位制度へ取り組む事業者の増加を図ることにより、介護職員の資質向上とキャリアアップを図る。 ・キャリア段位制度普及促進セミナーの開催 H28：3回、H29：3圏域各5回、H30：3回（3圏域）R1：3回（3圏域）R2：2回（オンライン開催）R3：2回（オンライン開催） ・アセッサー講習受講支援 H28：224人、H29：148人 H30：86人 R1：55人、R2：31人、R3：34人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 介護職員の人材育成、キャリアアップに向けた制度である介護キャリア段位制度について、県内事業所における取組みの促進を図ることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 普及促進セミナーとアセッサー講習受講支援の2つの取組みを合わせて実施することにより、県内事業所に対してキャリア段位制度の有効性等の理解促進を図るとともに、実際に同制度への取組みに着手することを促進することができた。</p>	
その他	令和3年度 2,170千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 16】 認知症対応型サービス事業開設者等研修事業	【総事業費】 940 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県	
事業の期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	認知症対応型サービス事業所が増加しており、受講希望者も増加している。	
	アウトカム指標：認知症対応型サービス事業開設者等研修修了者数 0 人（平成 27 年度） → 延べ 896 人（令和 3 年度）	
事業の内容	認知症対応型サービス事業所開設者向け研修会 (委託先：岐阜県福祉事業団)	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>認知症介護の適切なサービスの提供に関する知識等を有した事業所・介護従事者の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型サービス事業開設者研修受講者： 研修回数 2 回・受講者数は合わせて 14 人程度／年 ・認知症対応型サービス事業管理者研修受講者： 研修回数 2 回・受講者数は合わせて 140 人程度／年 ・小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修受講者： 研修回数 1 回・受講者数 40 人程度／年 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型サービス事業開設者研修 H27：研修 2 回・受講者数合計 15 人 H28：研修 2 回・受講者数合計 7 人 H29：研修 2 回・受講者数合計 11 人 H30：研修 2 回・受講者数合計 11 人 R1：研修 2 回・受講者数合計 13 人 R2：研修 1 回・受講者数合計 11 人 R3：研修 2 回・受講者数合計 13 人 ・認知症対応型サービス事業管理者研修 H27：研修 2 回・受講者数合計 112 人 H28：研修 2 回・受講者数合計 88 人 H29：研修 2 回・受講者数合計 97 人 H30：研修 2 回・受講者数合計 95 人 R1：研修 2 回・受講者数合計 76 人 	

	<p>R2 : 研修 1 回・受講者数合計 66 人 R3 : 研修 2 回・受講者数合計 84 人 ・小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 H27 : 研修 1 回・受講者数合計 32 人 H28 : 研修 1 回・受講者数合計 25 人 H29 : 研修 1 回・受講者数合計 30 人 H30 : 研修 1 回・受講者数合計 29 人 R1:研修 1 回・受講者数合計 20 人 R2 : 研修 1 回・受講者数合計 24 人 R3 : 研修 1 回・受講者数合計 23 人</p>
事業の有効性・ 効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 認知症対応型サービス事業開設者等研修修了者数 延べ 896 人（令和 3 年度末）</p>
	<p>(1) 事業の有効性 研修を受講することによって、認知症の適切なサービス提供に関する知識を有した者が管理者である事業所が増えることは、サービスの質向上につながり、有効である。</p> <p>(2) 事業の効率性 研修開催のノウハウを有する団体（岐阜県福祉事業団）に委託実施しており、効果的な研修を効率的に実施している。</p>
その他	令和 3 年度 940 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 17】 認知症地域医療人材育成事業	【総事業費】 6,950千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	国立長寿医療研究センター、岐阜県医師会、岐阜県精神科病院協会、岐阜県看護協会	
事業の期間	平成27年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	各医療職の認知症対応力を向上させることで、認知症の症状・身体合併症等の状態に応じた適切な医療サービスの提供体制構築を図る。	
	アウトカム指標：認知症新規入院患者2か月以内退院率の増加 20%（平成26年度（6月））→増加（平成31年度）	
事業の内容	認知症連携の中心となる認知症サポート医を養成するとともに、かかりつけ医、病院勤務の医療従事者、歯科医師及び薬剤師への認知症対応力向上研修を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポート医数（累計） 67人（平成26年度末）→163人（令和2年度末） ・かかりつけ医認知症対応力向上研修受講者数（累計） 800人（平成26年度末）→1,230人（令和2年度末） ・病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修受講者数（累計） 211人（平成26年度末）→2,870人（令和2年度末） ・歯科医師・薬剤師の認知症対応力向上研修受講者数（累計） 【歯科医師】399人 【薬剤師】734人（令和2年度末） 	
アウトプット指標（達成値）	○令和3年度末時点 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポート医数（累計）：171人 ・かかりつけ医認知症対応力向上研修受講者数（累計）：956人 ・病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修受講者数（累計） ：884人 ・歯科医師の認知症対応力向上研修受講者数（累計）：204人 ・薬剤師の認知症対応力向上研修受講者数（累計）：384人 ・看護職員の認知症対応力向上研修受講者数（累計）：534人 	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 認知症新規入院患者3か月以内退院率 11.3%（平成28年度）	

	<p>(1) 事業の有効性 本事業の実施により、岐阜県内で認知症ケアに携わる医療従事者の資質向上を図ることができ、認知症の人を地域で支える体制整備に繋がった。</p> <p>(2) 事業の効率性 岐阜県医師会等と連携して事業を実施したことで、県内全域で人材育成をすることができた。</p>
その他	令和3年度 6,950 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 18】 市町村認知症ケア人材養成事業	【総事業費】 48千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	国立長寿医療研究センター、認知症介護研究・研修東京センター、岐阜県	
事業の期間	平成27年10月～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	認知症を早期に発見し、適切な医療・介護等に繋げる初期の対応体制の構築と、認知症の人を地域で支えるための有機的な連携体制の構築を図る。	
	アウトカム指標：認知症新規入院患者2か月以内退院率の増加 20%（平成26年度（6月））→増加（平成31年度）	
事業の内容	認知症初期集中支援チーム員の養成と、認知症地域支援推進員の資質向上のための取組を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	認知症の人ができる限り住み慣れた地域で暮らせるよう、県内市町村に配置、設置した認知症地域支援推進員および認知症初期集中支援チームの活動を推進する。 ・認知症地域支援推進員配置人数 38市町113人（平成29年10月）→全市町村120人（平成30年度） ・認知症初期集中支援チームの活動実績のある市町村 10市町（平成29年10月）→全市町村（平成30年度）	
アウトプット指標（達成値）	○令和4年4月時点 ・認知症地域支援推進員配置人数 全市町村167人（令和3年度） ・認知症初期集中支援チームの活動実績のある市町村 32市町村（令和3年度）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 認知症新規入院患者3か月以内退院率 11.3%（平成28年度）	

	<p>(1) 事業の有効性 本事業の実施により、岐阜県内の市町村における認知症地域支援推進員及び認知症初期集中支援チーム員の資質向上を図ることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 「認知症地域支援推進員研修」については、認知症介護研究・研修東京センターの研修を活用、「認知症初期集中支援チーム員研修」については、国立長寿医療研究センターに委託した（平成 31 年度からは各市町村負担にて受講）。平成 28 年度より「認知症地域支援推進員ネットワーク会議」、平成 30 年度より「認知症初期集中支援チーム員フォローアップ研修」を岐阜県が主体となり実施し、好事例の紹介や市町村間のつながりを構築する研修を県全域で実施している。（H31、R2 は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）。R3 は Web 方式で開催。</p>
その他	令和 3 年度 48 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 23】 成年後見・生活支援センター設置支援事業	【総事業費】 26,423 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県社会福祉協議会へ補助	
事業の期間	平成 31 (2019) 年 4 月 1 日～令和 4 (2022) 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	県内認知症高齢者数は、平成 24 年の 52 千人から平成 37 年には 77 千人に増加することが見込まれており、成年後見制度をはじめとする権利擁護に係る支援体制の整備が必要である。	
	アウトカム指標： 成年後見申立件数：500 件／年（令和元年末）	
事業の内容	「岐阜県成年後見・福祉サービス利用支援センター」を設置 ・権利擁護推進員による相談支援：基幹的市社協（7 社協）に「権利擁護推進員」を各 1 名委託配置し、県民及び市民後見人、市町村職員からの相談に対応。 ・権利擁護推進事業（本部事業） ①法人後見を行う担い手、市町村職員に向けた資質向上研修 ②地域住民向け啓発セミナーの開催や福祉事業者等向け出前講座の実施 ③関連機関連携会議開催	
アウトプット指標（当初の目標値）	法人後見を行う団体（社協、NPO 等）の資質向上研修会 4 回／年 権利擁護セミナー受講者数 160 人／年	
アウトプット指標（達成値）	法人後見を行う団体（社協、NPO 等）の資質向上研修会 R1：3 回 R2：3 回 R3:3 回 権利擁護セミナー受講者数 R1：未実施 R2：103 人 R3:122 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 成年後見申立件数：366 件／年（令和元年末） 381 件／年（令和 2 年末） 381 件／年（令和 3 年末）	
	(1) 事業の有効性 各セミナー等の実施により、市町村における成年後見制度に係る業務を促進することができた。 (2) 事業の効率性 基幹的市社協に「権利擁護推進員」を各 1 名委託配置することによ	

	り、各圏域において、県民及び市町村職員からの相談に対応できた。
その他	令和3年度 26,424千円中 26,423千円（残額は他の年度の基金を充当）

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 28】 サポートダイヤル事業	【総事業費】 4,696千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（委託先：岐阜県社会福祉協議会）	
事業の期間	平成27年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。	
事業の内容	介護業務に従事する職員の人間関係や業務内容等に対する悩み・不満などの相談に対応することにより、介護事業所で従事する職員の定着を支援する。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,675人（令和2年度）	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護業務に従事する職員の人間関係や業務内容等に対する悩み・不満などの相談に対応することにより、介護事業所で従事する職員の定着を支援する。 ・就労・定着支援相談件数：120件程度／年	
アウトプット指標（達成値）	専門相談員を配置し、介護業務に従事する職員の人間関係や業務内容等に対する悩み・不安などの相談に対応することで、介護事業所で働く職員の定着を支援した。 ・就労・定着支援相談件数 H27:147件 H28:132件 H29:229件 H30:156件 R1:153件 R2:105件 R3:85件	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 本事業の実施により、介護業務に従事する職員から、労働環境・待遇、職員関係、利用者との接し方、資格取得についてなど、幅広い相談を受け、内容によっては事業所訪問を行うなど、介護事業所で働く職員の定着を促進することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 相談を受ける専用ダイヤルを設置したことにより、相談窓口を明確化し、相談内容の集約を行うことができた。</p>	
その他	令和3年度 4,696千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.33】 外国人介護人材受入環境整備事業	【総事業費】 3,768千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（中部学院大学へ委託）	
事業の期間	平成30年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,726人（令和2年度）	
事業の内容	外国人介護労働者の受け入れ体制の構築や外国人・日本人介護労働者が共に働きやすい環境の整備を促進することで、多文化共生を推進するとともに、介護サービスを支える介護人材の育成と介護サービスの質の向上を図る。	
アウトプット指標（当初の目標）	外国人介護労働者の受入環境整備に関するセミナーの開催 ・セミナー参加者：300人／年	
アウトプット指標（達成値）	・セミナー参加者 H30：121人／年 H31：3回108人 R2：1回64人 R3：2回81人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	(1) 事業の有効性 本事業の実施により、外国人介護人材受入にあたっての、文化的な違い等の基礎知識、適切な指導方法、職場環境や生活環境の整備・支援等を行い、介護事業者の理解促進、不安軽減等を図ることができた。 (2) 事業の効率性 平成29年度より外国人技能実習制度の対象職種に「介護」が追加され、また介護福祉士を取得した留学生への在留資格が見直されるなど、外国人介護人材における社会的環境が大きく変化している中で、外国人介護人材に関する知識等を有している介護福祉士養成施設に委託したことにより、効率的な介護事業者支援ができた。	
その他	令和2年度 2,064千円、令和3年度 1,704千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.34】 介護人材確保・育成支援事業（連携協定分）	【総事業費】 4,818千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（中部学院大学へ委託）	
事業の期間	平成30年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,726人（令和2年度）	
事業の内容	中部学院大学等の介護人材育成に係る知見を有する講師人材等を活用した事業を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標）	①人手不足から研修への職員派遣が困難な介護事業所に対し、研修講師を派遣 ・派遣事業所数：20事業所 ②県内の在留外国人に対し、介護に関する日本語、介護に関する知識及び技術等習得の研修を実施 ・受講者数：20人 ③介護福祉士養成校卒業生を対象に、卒後フォローアップと離職防止等を目的とする研修を実施 ・研修・交流会の開催：2回	
アウトプット指標（達成値）	・派遣事業所数 H30：21事業所 R1：28事業所 ・受講者数 H30：15人 R1：3人 ・研修・交流会の開催 H30：2回 R1～R3：新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	(1) 事業の有効性 中部学院大学との連携により、研修講師の派遣、在留外国人に対する初任者研修の実施、介護福祉士養成校の卒業生に対する研修・交流会を行い、介護人材の確保と定着の促進を図ることができた。 (2) 事業の効率性 県と中部学院大学及び同短期大学部との連携協定に基づき委託を行うことにより、一般的な外部講師を招聘する場合と比べ効率的に事業を実施した。	
その他	令和2年度 2,694千円、令和3年度 2,124千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.35】 介護事業者の外国人留学生支援事業	【総事業費】 500千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（民間事業者へ補助）	
事業の期間	平成30年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,726人（令和2年度）	
事業の内容	介護福祉士の資格取得を目指す外国人留学生を支援する就労予定先の介護事業者に対し、当該事業者が外国人留学生に支援する奨学金に係る費用の一部を助成する。	
アウトプット指標（当初の目標）	介護事業者が外国人留学生に対して学費や生活費等を給付または貸与した場合に県が補助 ：15人／年	
アウトプット指標（達成値）	・補助人数 R3：5人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	(1) 事業の有効性 日本語学校に通う外国人留学生の学費、居住費等の費用の一部を助成することにより、外国人介護人材の確保の促進を図ることができた。 (2) 事業の効率性 補助金の制度概要及び募集文書を、介護事業者や関係団体等に送付し、効率的に対象者に周知した。	
その他	令和3年度：500千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 36】 福祉の仕事就職フェア開催事業	【総事業費】 7,435千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（委託）	
事業の期間	平成30年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化社会の進展に伴い福祉人材の需要は高まっており、既存の人材の定着支援とともに、新たな人材確保対策を図ることは重要である。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,675人（平成32年度）	
事業の内容	介護・福祉の仕事に関する合同就職説明会を実施し、就職したい方への就業支援、興味のある方への周知啓発等を行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	福祉の仕事就職フェア参加者：2,000人	
アウトプット指標（達成値）	オール岐阜・企業フェス（合同企業説明会）参加者： H30:2,011人 R1:2,764人 R2（オンライン開催）：ホームページ訪問者数 73,311人 R3（オンライン開催）：ホームページ訪問者数 67,078人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>福祉分野において、福祉人材の確保は急務となっている。県内において、福祉分野の事業所が一堂に集まり、面談会や就職相談を行う機会はなく、人材確保に苦慮している事業所からの期待も高い。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>平成30年度から、オール岐阜・企業フェス（出展企業：410企業・団体）に組み込んで開催することで、効率的に事業を実施している。</p>	
その他	令和2年度 3,929千円、令和3年度 3,506千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 37】 福祉の仕事普及啓発事業	【総事業費】 7,260千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（委託）	
事業の期間	平成30年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化社会の進展に伴い、今後も福祉人材の需要は高まっていくため、将来的な福祉人材の確保につながる事業実施の必要性は高い。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,675人（令和2年度）	
事業の内容	小中高生向け「福祉のおしごと新聞」に、福祉の職場で働く若手職員や学生へのインタビュー記事、県内優良事業所の紹介等、福祉の職場の魅力を伝える記事を掲載。	
アウトプット指標（当初の目標値）	小学生：年3回（約11万人/回 対象） 新聞特集紙面の掲載：年3回	
アウトプット指標（達成値）	小学生：年3回（約12万人/回 対象） 中3生・高校生：年4回（約8万人/回 対象）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 高齢化社会の進展に伴い、今後も福祉人材の需要はますます高まっていくため、将来に夢を持ち、進路を考え始める若年層に介護・福祉の仕事の魅力を伝えることで、進学や就職にあたって、介護・福祉の仕事を目指す人材を確保することにつながる。</p> <p>(2) 事業の効率性 継続的に魅力発信を行うことが大切であり、福祉の仕事や関連する制度、イベント情報等を掲載し、小学生だけでなく、その家族や学校関係者等幅広い階層を対象に、福祉の魅力を伝えている。</p>	
その他	令和2年度 3,630千円、令和3年度 3,630千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 38】 福祉の仕事合同研修・交流会開催事業	【総事業費】 2,020千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（委託）	
事業の期間	平成30年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展等に伴い福祉人材の需要は高まっており、新たな人材の定着支援を図る取組みは重要である。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,675人（平成32年度）	
事業の内容	県内で採用された福祉・介護職員を対象に、お互いの連帯感を高めるためにグループワークを中心とした交流会を開催するとともに、講演会や小規模事業者では実施が難しい研修会を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	120人の参加	
アウトプット指標（達成値）	H30:76人 R1:74人 R2:42人 R3:51人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>岐阜県では、3年未満の介護職員の離職率が約6割であり、定着に向けた取組みが重要である。そこで、新人職員について、悩みの共有やモチベーションアップなど、事業所を越えた交流を通してネットワークの構築や、福祉・介護人材の定着及び離職防止を図る。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>研修会を開催し、相互の資質や意欲を高めてもらうとともに、交流会を開催することで、社会福祉施設等で働く職員が事業所を超えた同期とつながりを持ち、早期の離職防止及び定着につなげる。</p>	
その他	令和2年度 1,013千円、令和3年度 1,007千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 39】 岐阜県介護研修センター運営事業	【総事業費】 4,822 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県社会福祉事業団（県委託）	
事業の期間	平成30年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化が進む社会情勢において、介護サービスを支える人材の資質向上に関する事業は必要性が高い。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,726人（令和2年度）	
事業の内容	介護専門職や一般の方向けに対する研修・講座に特化した「岐阜県介護研修センター」の運営を行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	開催する研修事業：30	
アウトプット指標（達成値）	・開催した研修事業：21（H30）、17（R1）、18（R2）、22（R3）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 研修受講生の介護スキル等の向上により、介護人材全体の資質向上及び底上げが図られ、満足度の向上と働きやすさの向上につながることで人材の定着及び離職防止を図ることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 介護専門職や一般の方向けに対する研修・講座に特化した「岐阜県介護研修センター」で研修を実施したことにより効果的に事業を実施することができた。</p>	
その他	令和2年度 2,400千円、令和3年度 2,422千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 40】 外国人介護人材対策協議会	【総事業費】 2,158 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（中部学院大学へ委託）	
事業の期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護を必要とする方が安心してサービスを受けることができるよう、介護サービスを支える人材の確保と介護サービスの質の向上を図る。 アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,675人（令和2年度）	
事業の内容	介護事業者団体、介護福祉士養成施設等による協議会を設置・運営し、他県先進事例や送出し国の情報等の調査を通じて、効果的な受入支援策を検討する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	介護事業者団体、介護福祉士養成施設等による外国人介護人材対策協議会を開催する。 ・外国人介護人材対策協議会の開催：3回／年	
アウトプット指標（達成値）	・外国人介護人材対策協議会の開催 H31:3回、R2:3回、R3:3回	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度） (1) 事業の有効性 本事業の実施により、県内外国人介護人材の就労状況などの実態調査、他県の先進事例や送り出し国の情報収集などを行い、外国人介護人材の受入に係る効果的な施策を検討することができた。 (2) 事業の効率性 平成29年度より外国人技能実習制度の対象職種に「介護」が追加され、また介護福祉士を取得した留学生への在留資格が見直されるなど、外国人介護人材における社会的環境が大きく変化している中で、外国人介護人材に関する知識等を有している介護福祉士養成施設に委託したことにより、効率的な介護事業者支援ができた。	
その他	令和2年度 1,166千円、令和3年度 992千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 4 1】 認知症サポート体制整備構築事業	【総事業費】 888 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県医師会へ補助	
事業の期間	平成 30 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	認知症ケアに携わる地域資源を最大限に活用し、認知症発症初期から状況に応じて、医療と介護が一体となった認知症の人への支援体制を構築する必要がある。	
	アウトカム指標：認知症治療病棟在院患者 3 か月未満退院率 13.6%（平成 30 年度（6 月））→15%（令和 3 年度）	
事業の内容	県内の認知症サポート体制構築会議の開催 地域において居宅等で生活する認知症の人を支えるため、認知症サポート医を中心とした多職種の連携体制向上を目的とした会議の開催に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	多職種連携会議への参加人数 62 人（令和元年度）→120 人（令和 3 年度）	
アウトプット指標（達成値）	認知症サポート体制構築事業意見交換会の開催 1 回 出席者 66 名（令和 3 年度）	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標	
	<p>(1) 事業の有効性 認知症施策を円滑に進めていくには、医療・介護・福祉（市町村・地域包括支援センター等）の連携が不可欠であり、関係機関間での連携体制構築には、地域の関係者間での顔の見える関係づくり（意見交換会）が有効である。</p> <p>(2) 事業の効率性 地域連携の中心となる認知症サポート医が会員であり、県内に広いネットワークを有する県医師会に助成することは、効率的に地域の連携体制構築を行うことが可能である。</p>	
その他	R3：888 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 4 2】 外国人介護人材マッチング支援事業	【総事業費】 6,379 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（民間事業者へ委託）	
事業の期間	令和2年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢者の増加に伴い、今後増加する介護サービスの需要に対応するため、介護職員の確保・育成が必要。 アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,726人（令和2年度）	
事業の内容	県内介護施設への就労（特定技能1号）及び介護福祉士養成施設への留学を希望する人材と、県内介護施設及び介護福祉士養成施設（以下「県内介護施設等」という。）とのマッチングにつなげるため、県内介護施設等と送出し国関係機関等と相互の情報提供、就労・留学候補者に対する送出し国での説明会等を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	現地における合同説明・面接会の開催 ・参加者数 60人/年	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・合同面接会参加事業所 R2：7事業所 R3：7事業所 ・合同面接会参加外国人材 R2：144人 R3：34名 （R2、R3は新型コロナウイルス感染防止対策のため現地ではなくオンラインで実施）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度） (1) 事業の有効性 県内介護施設からの情報収集、岐阜のPR動画作成、オンラインでの合同面接会の実施などコロナ禍において効果的な施策を実施することができた。 (2) 事業の効率性 介護の現場の実態に精通しており、外国人介護人材の受入れの知識や経験のある者が事務局に在籍している老施協、老健協に委託したことにより、効率的に事業を実施した。	
その他	R2:4,139千円、 R3:2,240千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 43】 福祉人材確保・育成・定着推進事業	【総事業費】 2,675 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県（一部民間事業者へ委託）	
事業の期間	令和2年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢社会の進展に伴い、今後も介護・福祉人材の需要は高まっていくため、将来的な人材の確保につながる事業実施の必要性は高い。 アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140人（平成25年度）→35,726人（令和2年度）	
事業の内容	福祉人材の確保・定着等を推進するため、県内の福祉事業所等の職員や有識者、福祉施設従事者、福祉系大学生、福祉系教員を構成員とした福祉のイメージアップ委員会を設置し、福祉現場の課題の洗い出しを行い施策へ反映させる。また、福祉の魅力ややりがいなどを紹介するDVDを作成・配布する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	DVD配布枚数：100枚（福祉系大学、福祉系高校、福祉団体等）	
アウトプット指標（達成値）	14枚 ※Youtubeでの動画配信に注力 R3より福祉人材確保・定着のSNSを開設	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945人（令和2年度） (1) 事業の有効性 高齢化社会の進展に伴い、今後も福祉人材の需要はますます高まっていくことに加え、若手介護職員の離職率が高い。そこで、福祉の仕事の理解とイメージアップを図ることで、福祉人材の確保・定着につなげる。 (2) 事業の効率性 福祉人材の確保・定着につなげるため、福祉の魅力ややりがいなどを紹介する動画を配信することで、広く福祉の仕事への理解促進とイメージアップを図っている。	
その他	R2:1,245千円、 R3:1,430千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 4 4】 強度行動障がい等支援職員養成事業	【総事業費】 11,642 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	(福) 岐阜県福祉事業団へ補助	
事業の期間	令和2年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	障がい者の重度化・高齢化に伴い、親亡き後を見据えた支援体制の整備（地域生活支援拠点等）が進められている。自傷・他害等を頻回に示す強度行動障がいのある方は、対応の難しさから施設の受け入れを断られるケースも多く、支援体制の強化が喫緊の課題である。 アウトカム指標：専門職員による構造化（強度行動障がい低減の取り組み）実績 0名（令和2年度）→ 1名（令和3年度）	
事業の内容	強度行動障がいのある方や高齢障がい者の支援体制を強化するため、先進的な取り組みを行っている国立のぞみの園（群馬県高崎市）へ県福祉事業団の職員を派遣する費用（人件費）の一部を補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	・専門職員養成（研修派遣）延べ人数：2名（令和2年度） 2名（令和3年度）	
アウトプット指標（達成値）	・専門職員養成（研修派遣）延べ人数：2名（令和2年度） 2名（令和3年度）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 ・構造化（試行）による行動障がい（自傷、他傷、破壊等）の頻度 52件（令和2年6月）→44件（令和3年2月） →15件（令和3年8月） (1) 事業の有効性 強度行動障がい及び高齢障がい者支援の先進施設の国立のぞみの園での研修は新たな援助技術を県内施設でも実施できる。 また、施設入所者の高齢化に伴い、将来を見据えた介護保険施設への移行事例等を研究することにより、住み慣れた地域での生活支援体制を検討する上で、効果的。 (2) 事業の効率性 2名の派遣であるが、研修報告会及び派遣終了によって、派遣研修未受講者にも構造化等の取り組みを伝達研修でき、他の施設職員の構造化等の理解促進が図られている。	
その他	R2:5,456 千円、 R3:6,186 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 45】 高齢障がい者のための障がい福祉・介護連携促進事業	【総事業費】 1,882 千円
事業の対象となる区域	県全域（令和2年度の連携推進会議は岐阜圏域にて開催）	
事業の実施主体	岐阜県（一般社団法人ぎふケアマネジメントネットワークへ委託）	
事業の期間	令和2年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、障がい者の生活を地域全体で支える体制づくりとして地域生活支援拠点の整備が進められている。高齢障がい者に対しては、障害福祉サービスと介護保険サービスが連携して切れ目のない支援を行う必要があるが、現状では両サービスの連携は十分でない。	
	アウトカム指標：地域生活支援拠点等を1つ以上整備した圏域数 2圏域（令和元年度）→ 5圏域（令和2年度）	
事業の内容	障がい福祉・介護関係者の相互理解・連携を図るため、以下の内容を実施する。 ・障がい福祉関係者向け介護支援対応力向上研修 ・介護関係者向け障がい支援対応力向上研修 ・障がい福祉・介護関係者合同研修（ケース検討） ・共生型サービス理解促進研修 ・圏域単位の連携推進会議（地域の高齢障がい者支援体制整備に向けた検討）	
アウトプット指標（当初の目標値）	・対応力向上研修及び合同研修受講者数：100名（令和2年度） 500名（令和3年度） ・圏域単位の連携推進会議開催数：1回（令和2年度） 2回（令和3年度）	
アウトプット指標（達成値）	・対応力向上研修及び合同研修受講者数： 1,175回（令和2年度） ※YouTube動画視聴回数 416名（令和3年度） ※オンライン開催 (研修3回・講演会1回) ・圏域単位の連携推進会議開催数：1回（令和2年度） 2回（令和3年度）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 ・障がい福祉関係団体と介護関係団体の連携推進	
	(1) 事業の有効性 障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた支援体制構築は喫緊の課題であり、高齢障がい者を共に支える障がい福祉・介護の連携推進は現場レベルにおいても必要かつ有効な手段である。	

	<p>(2) 事業の効率性</p> <p>障がい福祉・介護関係者がオンラインを通してであるが、一同に会し「顔の見える」関係づくりから連携を図っている。</p> <p>また、今まで交流のなかった相談支援専門員及び介護支援専門員団体間連携も進んでいる。</p>
その他	R2:941 千円、 R3:941 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 46】 チームオレンジ・コーディネーター研修事業	【総事業費】 49 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	岐阜県	
事業の期間	令和2年4月1日～令和4年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	各市町村において一定の活動の質を担保しながら、チームオレンジの設置を推進していく必要がある。	
	アウトカム指標：研修会の参加市町村数 0市町村（令和元年度） → 37市町村（令和3年度）	
事業の内容	チームオレンジの設置・活動を推進するために市町村に配置するコーディネーターやチームオレンジのメンバー等に対して、必要な知識や技術を習得するための研修等を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	チームオレンジ設置市町村数：42市町村（令和7年度）	
アウトプット指標（達成値）	チームオレンジ・コーディネーター研修 ・R2：研修1回、受講者数133人（市町村職員等） ・R3：研修1回、受講者数96人（市町村職員等）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標 ・チームオレンジ設置市町村数：5市町	
	<p>(1) 事業の有効性 市町村担当者や、チームオレンジ・コーディネーターを対象とした研修会を開催し、効果的な編成方法や運営のノウハウ等の習得を図ることで、市町村の実情に応じた「チームオレンジ」の設置や活動の推進に繋げる。</p> <p>(2) 事業の効率性 チームオレンジの立ち上げや運営ノウハウを有するオレンジ・チューターを活用した講義を行い、先進事例の紹介等をしており、効果的な研修を効率的に実施している。</p>	
その他	R3：49千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 47】 介護事業所における I C T 導入事業費補助金	【総事業費】 370,216 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	民間事業者へ補助	
事業の期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材が不足しており、人材確保のため、業務効率化、省人力化など働きやすい環境整備が必要である。	
	アウトカム指標：介護職員数の増加 27,140 人（平成 25 年度）→35,726 人（令和 2 年度）	
事業の内容	介護事業所職員の業務負担軽減・効率化を図るため、I C T 機器導入にかかる経費を補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	I C T を導入する事業所 261 事業所/年	
アウトプット指標（達成値）	I C T 導入事業所 令和 2 年度：260 事業所、令和 3 年度：279 事業所	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標 介護職員数：31,945 人（令和 2 年度）	
	<p>(1) 事業の有効性 介護現場の記録、情報共有、請求業務を ICT 化することは、業務の効率化及び介護職員の負担軽減に役立つことになるため有効である。</p> <p>(2) 事業の効率性 当該事業では、補助をすることにより ICT 機器の導入の負担を軽減するほか、導入した事業所による効果報告等を行い、介護事業所の ICT 化の普及を効率的に図っている</p>	
その他	R2：181,200 千円中 161,733 千円、残額は他年度の基金を充当 R3：238,128 千円中 208,483 千円、残額は他年度の基金を充当	